

中部のおすすめの店紹介、観光案内 第1回

寺本諭史

東海地域のご当地紹介として、私（寺本諭史）の地元、四日市市について、少し紹介したいと思います。

四日市市は三重県の北部に位置し、三重県では人口が最も多い都市（人口約31万）です。名古屋へのアクセスもよく、関西方面への交通インフラも整っています。ちなみに、三重県は空港も新幹線もありません…。



四日市市は、古くは東海道43番目の宿場町として栄えました。市内には、東海道沿いに史跡が多く残っています。
←は、歌川広重の「東海道五十三次」の「四日市宿」です。四日市宿近くを流れる三重川（三滝川）付近の情景です。

●史跡

東海道沿いの史跡として「日永の追分（ひながのおいわけ）」が有名です。ここは、東海道と伊勢街道の分岐点で、東海道の重要ポイントでした。現在は国道1号線の追分交差点となっています。

江戸時代にお伊勢参りは大ブームで、この辺りには多くの人々が往来したそうです。「日永の追分」には、伊勢神宮二の鳥居が立ち、遥拝鳥居（遠くから拝むための鳥居）として建てられました。



（一般社団法人 四日市観光協会より）

この鳥居は、式年遷宮ごとに神宮の古材を使って建て替えられています。ここからでも十分ご利益がありそうですね。

また、東海道沿いの史跡として「杖衝坂（つえつきざか）」もあります。「杖衝坂」は、東海道では箱根、鈴鹿峠に次ぐ難所の一つとされた急坂で、ヤマトタケルが東征の帰りに極度の疲労のため、腰の剣を杖にして登ったという故事が伝わっているところです。その際、ヤマトタケルが「私の足は三重に曲がってしまった」と嘆いたそうで、このことから「三重」という地名が付けられたといわれています。



（観光三重より）

また、松尾芭蕉が江戸から伊賀上野に帰る時、あまりの急坂のため落馬し、その際に詠んだといわれている句碑「歩行（かち）ならば杖衝坂を落馬かな」も建てられています。なかなかの急坂で細い道でしたが、なんだか歴史にロマンを感じました。

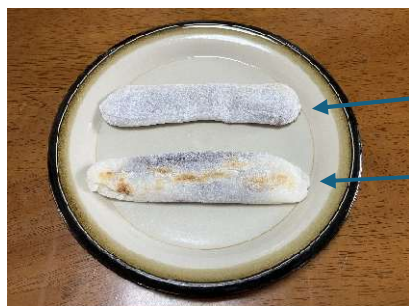
●グルメ

◎なが餅（永餅）

1550年（天文19年）創業の老舗和菓子店「笹井屋」が有名です。つぶあんの入った餅を

のばし、両面を香ばしく焼いたお餅です。追分にあたる「日永の里」の地名にちなんで、「なが餅」と称されました。お伊勢参りに来る人々の間で評判のお菓子となり、今では四日市市名物として知られています。笹井屋本店は、東海道沿いに建っています。

ちなみに、形が似たお餅として、お隣の桑名市の「安永餅」も有名です。



「なが餅」

餅の柔らかさが特徴です。

「安永餅」

餅の硬さやほどよい焦げ加減が特徴です。

今回は購入できませんでしたが、四日市市には「太白永餅」（あんこがやや多めの餅）もあります。食べ比べしてみてもよいかもしれませんね！

笹井屋の「なが餅」は、三重県出身の吉田沙保里さんの大好物としても知られています。名古屋駅のキオスクや日本橋の「三重テラス」でも売られているそうですので、東京の先生方も機会がありましたら是非ご賞味ください。

◎四日市とんてき

四日市市のB級グルメとして、「四日市とんてき」が有名です。「四日市とんてき」は、分厚く切った豚肉をニンニクと一緒に濃い目のソースで炒め、たっぷりの千切りキャベツを添えたことが特徴です。

「四日市とんてき」を提供するお店は、市内に複数ありますが、「まつもとの来来憲」は、発祥のお店として特に有名です。「大とんてき」が一番人気のメニューで、豚肉 250 g とボリューム満点でした。



その他、四日市市は、「かぶせ茶」や「コンビナートの夜景」等も有名です。本市に少しでも興味を持ってもらえたら幸いです。

さて、桑名から伊勢までの参宮街道は、別名「餅街道」とも呼ばれ、街道沿いには名物餅（「なが餅」や「安永餅」等も）が多数あります。次回以降、いくつか紹介できればと思います。